

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	かたりば		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		令和 7年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		令和 7年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団でのSST「対人関係」「コミュニケーション」への活動をメインに日々支援を行えている。また集団活動とは別で状況に合わせて利用者様から相談を個別で話を聞く場を設け、アドバイス等が行えている。	メイン活動に関しては、職員間で月目標の設定を行い利用者様に必要な設定が出来ている。また職員同士も臨機応変に対応でき、利用者様一人一人が理解出来るようにスモールステップで取り組んでいる。	研修等を通して職員一人一人のスキルアップを行い支援に深みが出せるように今後も努める。 個々で話を聞く場を今年度は多く設定出来たので、引き続き取り組んでいきたい。
2	中学生からの主な対象として、進路についての情報収集や話しを聞く場を設けられている。	利用者様、保護者様との面談を行い希望に添えるよう支援を行うことが出来た。選択肢として私立・公立だけでなく通信高校の情報収集も行い、提示することも出来た。	職員全体での情報共有が不十分な時もあった為、全体が理解できるように努めていく。

3	不登校児支援で、保護者や学校との情報共有、連携が取れるように動くことが出来た。	保護者、各関係機関との連絡を取り合い、定期的な話し合いの実施が出来た。	プログラムについて改善の余地がある為、職員間で支援の向上や理解を深めていく必要がある。
---	---	-------------------------------------	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者と送迎時に会うことが難しく、情報共有が出来ていないところがある。	保護者の仕事の関係上、情報を共有するのが難しい。祖父母等に共有することは出来ている。	電話やLINEを使って情報共有が定期的出来るように工夫していきたい。
2	地域の方や保護者同士の交流や接する機会が少ない。	不登校児支援では人と会うことが抵抗のある利用者もいる為難しい。 日常的な支援への影響する可能性も考え、実施が難しい。	上席に相談の上、保護者参加型のイベントの開催や研修を開催し、保護者同士の交流出来るように検討していく。
3			